

2020年03月03日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【本日のRBA理事会で、0.25%の利下げ】

本日(3月3日)、オーストラリア準備銀行(RBA、豪州中央銀行)は、政策理事会を開催し、キャッシュレート(政策金利)を25ベーシスポイント引き下げ、0.50%にすることを発表した。

コロナウイルスが世界的に感染を拡大させていることに対応し、オーストラリアの景気を支えるために、今回の利下げを決定した、と、その理由を述べている。

コロナウイルスにより、世界経済の短期的な見通しが不透明になっている旨を述べており、2020年上半期の世界の経済成長は従来の予測を下回る見通しに言及した。

ただし、コロナウイルスの影響がどの程度続くのか、またいつの時点で世界経済が回復軌道に戻るのかを判断するのは時期尚早、と述べている。

+++++

今回(3月3日)のRBA理事会に関しては、政策金利を据え置き、来月(4月)のRBA理事会での0.25%利下げを、事前に予想する市場参加者が大勢であった。

しかし、今回(3月3日)のRBA理事会での0.25%利下げを、事前に予想する市場参加者も、少なからずあった。

RBAの立場では、オーストラリア経済を支えるために、積極的な金融緩和の姿勢を見せることが、目的だったのである。

早めに利下げを断行した印象だ。

ただし、今回(3月3日)のRBA理事会でも、来月(4月)のRBA理事会でも、その効果には、大差が無い、と考える次第だ。

+++++

今回のRBA理事会での声明文では、RBA理事会は引き続き入念に状況を監視し、コロナウイルスが経済に及ぼす影響を判断する旨、述べている。

そして、RBA理事会はオーストラリア経済を支えるために、金融政策を一層緩和する用意がある、と明記した。

つまり、今後、さらに利下げの可能性があることを明言した訳だ。

このことが、今回（3月3日）のRBA理事会の最重要ポイントと考えます。

換言すれば、オーストラリア準備銀行（RBA、豪州中央銀行）のスタンスは、今までと変わらずに、金融緩和政策を維持する、ということだ。

+++++

RBAの金融緩和政策維持は、基本的に、外国為替市場での「豪ドル売りの材料」と判断できる。

ただし、本日（3月3日）、RBAの0.25%の利下げ発表の直後は、外国為替市場で、むしろ「豪ドル買い」に反応した。

これは、

「RBAが0.25%の利下げを断行した後は、次は、米国の利下げの番である」と、マーケット（市場参加者）が先読みしたことで起きた反応だろう。

つまり、今月中旬（3月17日、18日）のFOMCで、米ドルの政策金利が、0.25%引き下げになることを確実視した値動き、と考えます。

+++++

結論として、大局での「豪ドル売り」のスタンス、つまり、「豪ドル売り米ドル買い」「豪ドル売り円買い」のスタンスが、現在のセオリーであることに、変わりはない、と考えます。

+++++

（2020年03月03日東京時間15:00記述）